令和元年度豊かなむらづくり顕彰事業　実施概要

本顕彰事業は、集落等におけるむらづくり活動や農業生産活動に顕著な業績を収めている団体等を表彰するとともに、その活動内容を広く紹介することにより、農業・農村の発展に寄与することを目的に、関係機関の御支援をいただきながら昭和 56 年より実施しており、本年度で３８回目を迎えました。

これまで「むらづくり部門」で１７３団体、「農業生産部門」で９２団体の合わせて２６５団体が、農山村における地域づくりの模範的な団体として表彰されています。

内　　容	時　　期
事業募集	令和元年８月２３日（金）
現地調査	令和元年９月３日(火)～９月２０日(金) うち６日間
予備審査会	令和元年１０月２９日(火) １３：３０～１５：３０ ところ：杉妻会館４階　牡丹Ａ
本審査会	令和元年１１月２６日（火）１４：００～１６：００ ところ：杉妻会館３階　石楠花
表彰式	令和２年１月３０日（木）１０：３０～１１：４５ ところ：杉妻会館４階　牡丹

令和元年度豊かなむらづくり顕彰事業　審査講評

本年度は、２市４町から「むらづくり部門」に３団体、「農業生産部門」に３団体の合わせて６団体の御推薦をいただきました。

「むらづくり部門」では、福島市の「おらがむらの宝で都市・農村交流　あづまの里「荒井」のむらづくり」、桑折町の「「銀そば」「会津のかおり」で桑折町の農地を守りそば文化を咲かせます！」、南会津町の「みんなの力で地域を活性化！　如活禅師ゆかりの里　中荒井」、「農業生産部門」では、田村市の「震災からの再生　組織的な稲ＷＣＳ生産で、新たなステージの始まり」、矢吹町の「日本三大開拓地のフロンティア精神で力を合わせ大豆生産」、会津美里町の「全国初　新しい水稲直播栽培体系の確立」とのそれぞれのスローガンの下で、地域の特色を生かし、創意工夫を重ねながら、先進的かつ個性的なむらづくりや農業生産活動が実践されています。

本県農業を取り巻く状況が依然厳しい中、農山漁村に受け継がれた豊かな資源を活用して、地域の潜在的な活力を引き出し、地域の絆を推進力として大きな成果を挙げているその姿は、本県農業・農村の再生・発展に大きな弾みとなるものであります。

審査会ではいずれの推薦団体も、今後一層の発展が期待され、他地域の模範となるものと高く評価できることから、令和元年度豊かなむらづくり顕彰事業の優秀団体として決定いたしました。

なかでも、南会津町の「中荒井区」は、区内に墓墳や仏塔がある「如活禅師」を供養する祭りである「如活祭」の復活や「中荒井コミュニティーセンター」の整備に伴う「快適な中荒井集会施設づくり委員会」の設立をきっかけに、住民が団結したむらづくりを実践しております。また、集落ぐるみで電気柵を設置した鳥獣被害防止対策や、大学生やＮＰＯ法人との連携活動、如活祭での郷土料理の提供及び祝言料理の再現等による地域農業振興や食文化の継承など多様な活動を実践し、集落一体となった積極的なむらづくりに取り組まれております。南会津町の「中荒井区」は今後も更なる発展が期待され、本表彰事業の趣旨に最もふさわしい団体であることから令和２年度「豊かなむらづくり全国表彰事業」に本県代表として推薦することといたしました。

各受賞団体の皆様には、引き続きむらづくり活動に積極的に取り組まれ、豊かで活力あふれる地域を次世代に繋げていくとともに、本県農林水産業・農山漁村の健全な発展に引き続き御尽力くださいますようお願いいたします。

（審査長　福島県農林水産部長　松崎　浩司）

令和元年度豊かなむらづくり顕彰事業　受賞団体の概要

◆あづまの里「荒井」づくり地域協議会（福島市）

キャッチフレーズ：「おらがむらの宝で都市・農村交流　あづまの里「荒井」のむらづくり」

「福島×銀座×山口酒造りプロジェクト」の田植え式で、記念植樹を行うあづまの里「荒井」づくり地域協議会の皆さん

荒井地区は、福島市から河川改修に伴い整備された公園の維持管理を相談されたことを契機に、愛宕原景観畑懇談会を設立し、公園に隣接する農地等の環境再整備等に取り組んでいました。その後、地区全域で耕作放棄地の解消や農村環境整備を目的に『あづまの里「荒井」づくり地域協議会』を地区の連合会、福島市等と設立しました。

協議会では、再生した耕作放棄地でソバや菜の花等を栽培する一方、それらを活用した加工品の開発を進めるとともに、古民家等の地域資源を活用した都市・農村交流を推進してきました。

その中で、東京のＮＰＯ法人と連携したソバの生産や焼酎の販売、山口県の酒蔵と連携した酒米の栽培のほか、東京銀座と地域の中学生による菜の花の苗植え交流や、市内園児がひまわりの播種に参加するなどの活動を継続しており、今後も地域の活性化に大きく貢献することが期待されます。

◆半田銀山そばの会協議会（桑折町）

キャッチフレーズ：「「銀そば」「会津のかおり」で桑折町の農地を守りそば文化を咲かせます！」

半田山を臨むソバ畑にて
半田銀山そばの会協議会の皆さん

半田銀山そばの会協議会は、震災に伴う農産物への風評や農家の生産意欲の低下による遊休農地発生の未然防止と、かつて町内にあった銀山の閉山により途絶えていたそば文化を復活させることを目的に平成２４年に農業者等５２名で設立されました。

当協議会は、栽培部、そば打ち部、販売部、イベント部の４部門からなり、県オリジナル品種の「会津のかおり」を遊休農地で栽培し、「銀そば」ブランドで販売しています。さらに、そば打ち体験教室や新そば祭り等の各種イベントを開催し昔のそばの郷土料理の普及に努め、町内外にそばに親しむ機会を提供しています。

当協議会の活動は、今後も町内の農地の保全とそば文化の復活に大きく貢献することが期待されます。

◆中荒井区（南会津町）

キャッチフレーズ：「みんなの力で地域を活性化！　如活禅師ゆかりの里　中荒井」

世代間交流事業に取り組む中荒井区の皆さん

中荒井区は、江戸時代の禅師「如活禅師」を供養する「如活祭」の復活により地域づくりの機運が高まり、「中荒井地域活性化（元気づくり）計画」を策定して区民参加のむらづくりを実践してきました。

地区では少子高齢化等による集落機能の低下、離農・鳥獣被害による遊休農地の増加が課題となっており、多面的機能支払交付金や里山林整備事業を活用し、鳥獣被害対策として区の周囲３．７キロに及ぶ電気柵の設置や５haの里山林整備、７haの遊休農地解消を行っています。

また、ＮＰＯ法人と連携し割り箸の原料となる間伐材を提供するほか、大学生との交流を図り、中荒井区の伝統行事等への参加により親交を深めるとともに過疎問題解決を目指す取り組みを行っています。今後も様々な団体と協力しながら、持続可能なむらづくりを続けていくことが期待されます。

【　農業生産部門　】

◆ＭＫＦカンパニー（田村市）

キャッチフレーズ：「震災からの再生　組織的な稲ＷＣＳ生産で、新たなステージの始まり」

ＭＫＦカンパニーの皆さん

原発事故に伴う農畜産物への風評や耕作意欲の低下に伴う農地の荒廃が進む中、都路町内の畜産農家５戸で、農地の有効活用した安全な時給飼料確保を目的に、地域内で初めてとなる収穫・調整機械を導入し、稲ＷＣＳ（※）生産組織を設立しました。

稲ＷＣＳ生産では、省力・低コストである直播栽培に取り組み、収穫期の分散を進め面積拡大を図っています。

高品質な稲ＷＣＳの生産により、構成員の肉用牛雄牛の飼養頭数が震災直後の２倍以上となり、繁殖成績の改善及び子牛生産性の向上に寄与しているほか、中山間地域での高齢化や、担い手不足による農地の荒廃防止の受け皿となっており、今後も地域農業の振興に大きく貢献することが期待されます。

※稲ＷＣＳ：稲の実と茎葉を同時に収穫し発酵させた牛の飼料

◆中畑大豆生産組合（矢吹町）

キャッチフレーズ：「日本三大開拓地のフロンティア精神で力を合わせて大豆生産」

中畑大豆生産組合の皆さん

震災によるパイプラインの被災で、水稲の作付けが不可能になったことをきっかけに、担い手農家が中心となり、農家所得の確保を目的に転作大豆の生産が開始されました。初年度は収量・品質とも良好で、水稲以上の所得が確保できたことから、継続して大豆生産が行われることとなり、組合が設立されました。

水田での大豆生産に加え、組合員以外の畑での作付けも受託し、耕作放棄地の発生防止に取り組んでいます。

組合では若手農業者がオペレーターとして活躍しており担い手育成がなされているほか、フェロモントラップを設置し、適期防除に努めた結果、毎年県平均を上回る単収を確保しています。また、豆腐加工などの６次化や消費者の視察を受け入れて交流を図るなど、今後も地域の活性化に大きく貢献することが期待されます。

◆寺崎水稲直播営農組合（会津美里町）

キャッチフレーズ：「全国初　新しい水稲直播栽培体系の確立」

寺崎水稲直播営農組合の皆さん

高齢化による担い手不足の課題を受け、直播栽培による省力化された農作業の実現を目指し、地区の農業者１２名が組合を設立しました。

直播栽培による稲の倒伏防止策として「可変施肥直播機」を日本で初めて導入するとともに、安定した苗立ちの確保と除草対策として「新落水出芽法」を導入するなど、農業普及所等の関係機関、団体やメーカー等と連携して取り組んでいます。

組合では肥料・農薬を統一して経費削減を図るなど、今後の集団的な営農や集落維持のための意識が醸成されており、今後の地域農業振興に大きく貢献することが期待されます。